



京都大学総合人間学部オープンキャンパス 2017会場案内 吉田南構内

①学部説明会・模擬講義 → 道順 [4号館3F 4共30教室]

②相談コーナー [総合館北棟1F 共北11・12教室]

③研究室公開

④総合人間学部紹介コーナー [パネル展示:総合館北棟1Fラウンジ] [教員著書展示:吉田南総合図書館]

⑤学生企画

[京都大学各種団体の演技:
総合館北棟北側 中庭 付近]
[現役総人生による学部紹介:
総合館北棟2F 共北25・26教室]

⑥休憩場所

[総合館北棟BF Student Research Room]

総人受付

お手洗い

飲食施設

バッグ配布場所

自動販売機

公衆電話

相談コーナー

総合館北棟1F 共北11・12教室

時間 10:00~16:00



教員と先輩が受験勉強から大学生活まで何でも相談に乘ります。ざくばらんな何でも相談コーナーです。総人の先生や先輩と話がしてみたい。そんな方も大歓迎です。気軽に足を運んでみてください。

学部紹介(図書)

吉田南総合図書館

時間 10:00~16:00



教員著書展示を行っている吉田南総合図書館は、学部展示の場所とは少し離れていますが、総人の先生が執筆した多くの本を開覧できます。この機会にぜひ著書を手にとってみてください。

学部紹介(展示)

総合館北棟1Fラウンジ

時間 10:00~16:00



総人の先輩が作ったパネル展示や、ビデオで総人を紹介します。ビデオは総人の先生方や現役総人生が生の声で学部のことを語ります。ぜひ、見てください。

学生企画

I 総合館北棟北側 中庭 付近
II 総合館北棟2F 共北25・26教室

時間 I: 12:15~13:30
II: 11:00~12:15
13:30~14:45

I. 京都大学各種団体の演技

京都大学の各種団体の演技です。間近で一緒に演技を盛り上げてください。出演予定は彩京前線(ダンス)、MTTR(ダブルダッチ)です。

II. 現役総人生による学部紹介

総合人間学部現役学生が、受験勉強・研究内容・就活・院進学・大学生活とは、などのテーマについて、プレゼン形式で紹介します。



京都大学総合人間学部

〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町
TEL. 075-753-6506, 6507(教務掛)
FAX. 075-753-7874
http://www.h.kyoto-u.ac.jp

京都大学 総合人間学部オープンキャンパス 2017



8月9日(水) 吉田南構内

企画	場所	詳細	
①学部説明会・模擬講義	4共30教室 [4号館3F]	▶説明会A+模擬講義I <11:00~12:15> 講義テーマ:「極限の不思議」(清水扇丈 教授)	
②相談コーナー	共北11, 12教室 [総合館北棟1F]	▶説明会B+模擬講義II <13:30~14:45> 講義テーマ:「災害ボランティアとアクションリサーチ」(永田素彦 教授)	<10:00~16:00>
【吉田南構内 総合館・2号館・人環棟】		第1クール <12:30~13:15> / 第2クール <13:45~14:30> 第3クール <15:15~16:00> ^{※1}	
③研究室・実験室公開	研究室公開教員	教員専門分野	研究室(実験室)
人間科学系	松本 卓也 准教授	精神病理学・精神分析学	人環棟3F318
認知情報学系	武田 宙也 准教授	美学・芸術学	吉田南総合館南棟4F 共南479
国際文明学系	廣野由美子 教授	英文学・イギリス小説	吉田南総合館北棟4F 共北4130
文化環境学系	林 達也 教授	運動医科学・健康科学	人環棟3F 310
自然科学系	江川 達郎 助教	数学(解析学)	人環棟2F 226
④総人紹介コーナー	足立 匡義 教授	言語学、フランス語学 機能的言語類型論、言語対象性仮説	吉田南総合館南棟3F 共南335
⑤学生による企画	守田 貴弘 准教授	政治学・公共政策	人環棟3F 327
(音楽・ダンス等)	佐野 亘 教授	ドイツ思想、比較文学	吉田南総合館南棟 共南411
	細見 和之 教授	古代中国語	吉田南総合館南棟3F 共南325
	松江 崇 准教授	フランス文学	吉田南総合館南棟4F 共南 432
	塩塚秀一郎 教授	人文地理学	人環棟4F437
	小方 登 教授	環境構成論・文化遺産の保全	人環棟4F421
	増井 正哉 教授	物性理論	吉田南2号館3F 325
	森成 隆夫 准教授	ナノサイエンス	人環棟3F 315
	小松 直樹 教授	生態学	吉田南2号館3F 312b
	加藤 真 教授	地球科学	吉田南2号館1F 2共106
	鎌田 浩毅 教授		
集合場所 人環棟1Fピロティーを裏面の「会場案内」で確認し、集合時間く① 12:15②13:30 ③15:00に集合してください。 ^{※1}		<10:00~16:00>	
④総人紹介コーナー (パネル展示・教員著書展示)	I: 吉田南総合館北棟北側中庭付近 II: 吉田南総合館北棟2F共北25・26教室	学生企画I: 京都大学各種団体の演技 <12:15~13:30> 学生企画II: 現役総人生による学部紹介	<11:00~12:15 / 13:30~14:45>

各企画とも自由参加となります。ただし、当日の先着順により受け付けますので、それぞれの企画で収容限度数を超えた場合は、他の企画・他の時間帯へ変更いただく場合もあることをご了承願います。なお、文系・理系を問わず他の学部参加者もご参加いただけます。

※1 原則、クールごとの総入替としています。各研究室・実験室で3クールに分けて公開しています。各クールの内容は同じです。各クール開始の15分前に集合場所(裏面「会場案内」参照)に集合してください。参加希望の研究室は、収容限度数により調整させていただくことがあります。

吉田南構内は広いので、いろいろな建物で企画が行われています。研究室の場所や展示の場所がわからない時、迷った時は近くのスタッフに気軽に声をかけて下さい。

学部説明会

学部長と各学系主任による説明会です。 4号館3F 4共30教室

時 間
A : 11:00~12:15
(後半部は模擬講義I)
B : 13:30~14:45
(後半部は模擬講義II)



総合人間学部は京都大学で最も新しい学部です。今年4月に第25期生が入学しました。文系から理系にまたがった多種多様な教育研究領域を有しています。哲学や歴史など我々の文化や社会に関わることから、認知・行動や地球などの人体や自然を扱うものまで、幅広く深く学ぶことができる学部です。必ずしも、皆さんの興味を引いてやまない領域がいくつもあると思います。模擬講義ならびに研究室公開に参加して、それを実感してください。卒業後は、大学院、官公庁、製造業、マスコミ、国際機関など多様な業界で多数の卒業生が活躍しています。

模擬講義

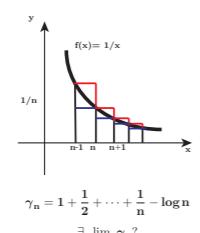
総合人間学部の講義を聴いてみて下さい。普段の講義より時間は短いですが、大講義室で行われる大学の講義を実際に体験してみてください。4号館3F 4共30教室

模擬講義 I (11:30~12:15)

認知情報学系

極限の不思議

清水 扇丈 教授
(数学解析・偏微分方程式)



紀元前5世紀にゼノンによって提示されたアキレスと亀のパラドックスは、俊足のアキレスがどれだけ早く走っても前を行く遅い亀に追いつくことができないという話ですが、これは公比が0と1の間である無限級数の極限の存在によって説明できます。S=1-1+1-1+…という級数は、S=(1-1)+(1-1)+…=0、S=1-(1-1)-(1-1)+…=1、S=1-(1-1+1-1+…)=1-SよりS=1/2と3種類の和があるよう見えますが、収束の定義に基づくと1-1+1-1+…という級数は発散級数であり和を持たないことがわかります。このように極限を考えるときは、収束を厳密に定義し、それに基づいて議論することが大切ですが、一緒にいくつかの極限の存在を探ってみましょう。

模擬講義 II (14:00~14:45)

人間科学系

災害ボランティアとアクションリサーチ

永田 素彦 教授
(社会心理学)



日本はしばしば大災害に見舞われてきました。1995年の阪神・淡路大震災では、全国から多くの災害ボランティアが被災地に駆けつけ、「ボランティア元年」と呼ばれています。その後の多くの災害でも、災害ボランティアは無くてはならない存在になっている一方で、さまざまな矛盾やジレンマも浮上しています。今回の模擬講義では、東日本大震災でのアクションリサーチをもとに、災害ボランティアの役割と課題を考えてみようと思います。

研究室公開

研究室（実験室）を訪れ、大学の研究室の雰囲気や先生方の研究の様子を感じとって下さい。※参加希望の研究室の集合場所を下欄で確認し、各クール開始時間15分前に集合してください。

総合館・3号館 人環棟

人間科学系 精神病理学・精神分析学

松本 卓也 准教授

人環棟3F 318



当研究室では、「精神病理学」と「精神分析」を中心に研究しています。この2つの分野は、精神医学とも関連がありますが、医学的・理系的な方法よりも、むしろ様々な哲学や思想などを参考にした「文系」的な方法によって精神障害を考えようとするものです。オープンキャンパスでは、研究のさわりの部分や、基本的な考え方をお話します。

人間科学系 美学・芸術学

武田 宙也 准教授

吉田南総合館南棟4F 共南479



専門は美学・芸術学です。これは一言でいえば、美や芸術について哲学的に考える学問です。美や芸術について考えるためには、たくさんの芸術作品に触れたことがあったり美術の歴史を知っているだけでは十分でなく（もちろんそれは、まずもって大切なことではあります）、文理にまたがる幅広い素養が必要になります。美大ではなく総合大学である京都大学、さらには総合人間学部という、その中でもとりわけ学際性の強い学部で美学・芸術学に取り組む意義はここにあると、私は考えています。興味を持たれた方は研究室をのぞいてみてください。

人間科学系 英文学・イギリス小説

廣野 由美子 教授

吉田南総合館北棟4F 共北4130



私はイギリス小説を研究しています。主たる研究対象は、ジェイン・オースティン、ブロンテ姉妹、ディケンズ、ジョージ・エリオット、トマス・ハーディなどの19世紀作家です。小説は「語り手」によって物語られています。この「語り」に着目して小説を分析することが、私の中心テーマです。また、プロット構成・人物造形・ミステリーなど様々な技法的侧面からも、作品解釈を試みています。授業では、英語の原書を読解する鍛錬が、土台となります。

認知情報学系 運動医科学・健康科学

林 達也 教授
江川 達郎 助教

人環棟3F 310

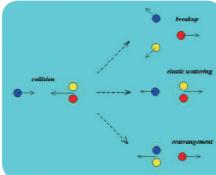


「運動はどのようなメカニズムで健康を増進させるのか」「運動を十分に行えない人たちの代謝機能を向上させるためには」「運動をしないあるいは年を取ると筋肉が衰えるメカニズムは」というようなテーマで研究を進めています。最近では、食品成分のもつ運動類似作用や運動効果を高める作用についても研究しています。主に実験動物や培養細胞を対象に、生理学・生化学・分子生物学的手法を用いた研究を行っています。

認知情報学系 数学（解析学）

足立 匡義 教授

人環棟2F 226



私の専門は解析学で、主として量子力学の基礎方程式であるシュレーディンガー方程式を、関数解析学的手法を用いて研究しています。実際にその内容を紹介するとなれば、相応の予備知識が必要となります。しかし、この場はオープンキャンパスですから、それがあることを前提としてお話するつもりはありません。高校までで学ぶ内容から完全に乖離したものではなく、それを基礎として研究が進んでいるのだということを、少しでも理解して頂けるよう努めます。

認知情報学系 言語学、フランス語学 機能的言語類型論、言語相対性仮説

守田 貴弘 准教授

吉田南総合館南棟3F 共南335



「話している言語によって見える世界も変わってくる」。そう言われてみなさんは納得するでしょうか。それとも、「そんなわけない」と思うでしょうか。学問として一歩進むためには、「じゃあ、どうすればどちらが正しいのかを確かめることができるのだろう?」という問題を考えることから始まります。オープンキャンパスでは、この謎に迫るための言語学的実験の試みについて紹介します。その他にも、理論言語学や、フランス語学について知りたいといった方も大歓迎です。

国際文明学系 政治学・公共政策

佐野 亘 教授

人環棟3F 327



政治や公共政策に関する諸問題について、幅広く研究しています。わたし自身は主として理論的研究をおこなっていますが、研究室全体としては、地方議会や空き家問題のような具体的な政治・政策の問題から、政策デザインや「エビデンスにもとづく政策」(evidence based policy)についての理論研究まで、いろいろなテーマを扱っています。わたし自身は現代規範理論と呼ばれる哲学的な議論と、具体的な政治や政策のあり方をどうやってつなげるか、ということを基本的なテーマとして研究してきました。



国際文明学系 ドイツ思想、比較文学

細見 和之 教授

吉田南総合館南棟 共南411



私の専門はドイツのユダヤ系の思想です。有名なアドルフ・ベンヤミン、アーレン…。いずれも、ヒトラーの時代には亡命せざるをえなかったひとたちです。彼ら、彼らの思想を考えるうえでは、ホロコーストなどの背景を確認する必要があります。時代のなかでそれぞれの思想をトータルに捉えること。また、私自身若い頃から詩を書いてきたこともあって、現代詩を中心とした比較文学もたいせつなテーマにしています。

模擬講義 II (14:00~14:45)

人間科学系

災害ボランティアとアクションリサーチ

永田 素彦 教授
(社会心理学)



日本はしばしば大災害に見舞われてきました。1995年の阪神・淡路大震災では、全国から多くの災害ボランティアが被災地に駆けつけ、「ボランティア元年」と呼ばれています。その後の多くの災害でも、災害ボランティアは無くてはならない存在になっている一方で、さまざまな矛盾やジレンマも浮上しています。今回の模擬講義では、東日本大震災でのアクションリサーチをもとに、災害ボランティアの役割と課題を考えてみようと思います。

国際文明学系 古代中国語

松江 崇 准教授

吉田南総合館南棟3F 共南325



専門は古代中国語——おおよそ皆さんが存知の「漢文」に相当します——です。かつては「文法がない」と言われたこの言語には、実際には、時代ごとに精緻で複雑な文法規則が存在することが分かってきました。それらを明らかにしつつ、古代中国語の発音を推定していくことによって、例えば曹操や諸葛孔明といった『三国志』の登場人物たちがどのような言葉を話していたのか、といった謎に迫ることができます。

文化環境学系 フランス文学

塙塙 秀一郎 教授
吉田南総合館南棟4F 共南432



専門はフランス文学。実験的な趣向や仕掛けをもつ作品を好んで読んできた。たとえば、Eの文字を一文字も使わずに書かれた長編小説。なぜわざわざそんな面倒くさいことをするのか？ 言語に「傷」を負わせることで表現力が増すのだろうか（逆だろうという気がするが……）。あるいは、バーキングエリアで寝泊まりしつつ高速道路を出ないで過ごした一ヶ月の記録。〈速く〉走るべき高速道路を〈ゆっくり〉走ったら見える風景はどう変わるのだろうか？ そんなことを考えるのが面白くてしかたがない。

文化環境学系 人文地理学

小方 登 教授

人環棟4F 437



地域空間論分野では、人文地理学をベースとした研究・教育を行っています。地球上では異なる環境のものと、人々が多様な生活様式を展開させていますが、当分野ではこうした地域的多様性を扱います。研究を行う上でフィールドワークなどが重要になりますが、他方で地図をはじめとする地理情報の活用も重視しています。近年では紙の地図に代わりコンピュータ・スマートphone上で地形をはじめとする地理情報が広く使われるようになりました。研究室公開ではこのようなデジタル地理情報処理・表示の原理について紹介します。

文化環境学系 環境構成論・文化遺産の保全

増井 正哉 教授

人環棟4F 421



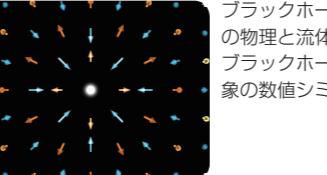
皆さんのが住む町・村にはそれぞれに固有の歴史・文化があり、それらとどのように保全し活用していくかが、町・村の再生の鍵として注目されています。ただ、再生・活用をはかるなかで、大切な歴史・文化が失われてしまう例もよく目にします。私たちは国内外の具体的な町・村を対象に、歴史的建造物・町並み景観・史跡や名勝の保存整備計画づくりや保存管理の仕組みづくりをお手伝いするなかで、歴史・文化を読み解く手法、それを保全・再生に結びつけていく手法、さらにはそれを持続的に可能にしていく社会的な仕組みづくりの研究を行っています。



自然科学系 物性理論

森成 隆夫 准教授

吉田南2号館3F 325

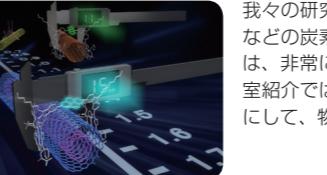


ブラックホールの性質を実験室で調べる？そんなことが可能でしょうか？実はブラックホールの物理と流体の物理は対応することが知られています。この対応関係を使うと、ホーキングがブラックホールについて予言した現象を確かめることができます。研究室公開ではこの現象の数値シミュレーション結果や超伝導研究について紹介します。

自然科学系 ナノサイエンス

小松 直樹 教授

人環棟3F 315



我々の研究室では、フラーレン、カーボンナノチューブ、グラフェン、ナノダイヤモンドなどの炭素のみからなるナノ材料（ナノカーボン）の研究を行っています。これらの材料は、非常にユニークな光学性（色々な光に応答する性質）を有しています。今回の研究室紹介では、ナノカーボンなどの先端材料から日常で使う蛍光ペンやマーカーなどを題材にして、物質の光学性について簡単な実験を通して考えてみたいと思います。

自然科学系 生態学

加藤 真 教授

吉田南2号館3F 312 b

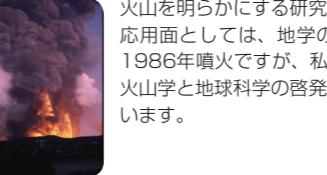


守るべき自然とは？ 自然の価値とは？ 生物多様性の起源は？ そんな疑問に答えると、さまざまな自然（森林生態系、海岸生態系など）の中で、多様な生物（植物や昆虫、貝などの海産無脊椎動物など）の種間関係や共生関係の自然史を研究しています。特に、花と訪花昆虫の間に見られる送粉共生系には、相利共生の進化や、共進化の動態、非協力的なパートナーへの制裁など、多くの興味深いテーマが秘められています。

自然科学系 地球科学

鎌田 浩毅 教授

吉田南2号館1F 2共106



火山を明らかにする研究をしています。特に、噴火が地球環境を変化させた仕組みに関心をもっています。応用面としては、地学の手法で噴火災害を予測し、軽減する研究をしています。この写真は伊豆大島1986年噴火ですが、私は火山に追いかかれました（「地学ノスメ」ブルーパック）。最近では、火山学と地球科学の啓発・教育活動にたずさわり、科学を分かりやすく解説する「科学の伝道師」をしています。